

足尾地域まちづくり懇話会

日 時：平成 30 年 6 月 30 日（土）10：00～

場 所：足尾庁舎

テーマ：足尾地域の観光誘客

[対応方針・対応状況]

① イベント情報の発信について

〈参加者の発言要旨〉

足尾町には、合併前から続いている祭りがありますが、世間にはあまり知られていません。イベント情報を広く発信していただけないでしょうか？

〈市側の発言要旨〉

イベントの広報に関しては、観光協会とも連携し、ホームページ、パンフレット作成、SNSなどのツールを使って情報提供しています。首都圏向けには、観光情報発信センターもありますので、観光協会とも連携を図り、効果的に情報提供をしたいと考えています。

◇ 対応方針・対応状況

イベントの広報に関しては、市や観光協会で運用するホームページへの情報掲載や日光 Fanbook など SNS を利用して情報発信を行っています。

今後は、関係機関と更に連携を図り、新聞・雑誌等へのアピールや首都圏向けには、観光情報発信センターを活用しての情報提供など、あらゆる角度からより効果的な情報発信ができるよう努めていきたいと考えています。

② 観光要素のPRについて

〈参加者の発言要旨〉

国立公園や県立自然公園といった足尾町にある観光的要素について、ポスターやパンフレットに記載がありません。積極的に情報発信していただけないでしょうか？

〈市側の発言要旨〉

地域の観光課で情報を集め、様々なツールを使ってPRに努めていきたいと

思っています。

◇対応方針・対応状況

市のホームページや日光 Fanbook 等を積極的に活用し、幅広くきめ細やかな情報発信を展開し、多くの観光客の関心を引くようなPR活動を行っていきます。

③観光情報更新と銅山観光施設案内の多言語化について

〈参加者の発言要旨〉

市のホームページにある観光情報は、最新のものに差し替えた方が良いと思います。また、市の職員が日光 Fanbook に登録し、係を超えてスマホにより市の魅力を発信すべきと考えます。さらに、足尾の観光の核となる銅山観光の施設内が4か国語表記の案内になっていないので、4か国語表記に対応していただけないでしょうか。

〈市側の発言要旨〉

ご指摘いただいた日光 Fanbook については、さっそく足尾観光課の職員が書き込めるようにメンバー登録をさせていただいたので、新鮮でリアルな情報を更新していきたいと思っています。4か国語表記に関しては、市としましても標識の多言語化の中で基本は4か国語表記としており、銅山観光についても同様の考えでありますが、音声での案内も含め、どんな内容を情報発信していくかについて検討させていただきます。

◇対応方針・対応状況

市のホームページの写真については、四季折々、季節に合わせた写真を掲載していきたいと思います。日光 Fanbook に関しては、足尾観光課の職員が記事を投稿できるよう登録させていただきましたので、今後は、いろいろな情報を掲載していきます。

また、4か国語の表記に関しては、日光市における標識の多言語化の基本としているところです。これは、足尾銅山観光としても同様のことですが、展示スペース等の問題もあり、すべての展示物に関して4か国語表記を実施することは難しいと考えています。

今後、東京オリンピック等の開催を控え、外国人観光客が少しでも多くの満足を得られるよう、標識や音声案内の多言語化について、調査・検討していきます。

④ボランティアによる観光案内について

〈参加者の発言要旨〉

土日だけでもボランティアで観光案内できる人がいればいいと思います。私は環境学習のスタッフでもあるので、その点では情報発信にはお役にたっているのではないかと考えています。

〈市側の発言要旨〉

土日のボランティアガイドという話は、足尾に来て何も案内が無いということでは不便に感じることもあると思いますので、そういう仕組みも必要だとは思っています。また、環境学習という面も足尾の強みであり、売りの部分であると思いますので、市としてもPRしていく必要があると考えています。

◇対応方針・対応状況

足尾地域には、各団体にボランティアガイドをしている方がいらっしゃいます。その情報が共有できていないため、効果的に活用がされていない状況ではないかと考えています。

日光市では、ガイドネットワーク「あいに行く、NIKKO」が10月にスタートし、足尾まるごと井戸端会議が「ぶらり鉾都あるき」で参加されたりとそれぞれ活動されております。こういった地域のみなさんの活動を、関係団体を通して共有を図り、ガイドを必要としている観光客のニーズに対応して行きたいと思えます。

また、活動を紹介できるしくみづくりを構築してガイドの連絡先を市のホームページに掲載することなども、検討していきたいと思えます。

⑤駅における観光情報の提供について

〈参加者の発言要旨〉

駅で足尾の歴史や良い所をビデオで流せば観光客も飽きないと思えます。

〈市側の発言要旨〉

足尾には4つの駅がありますが、全て無人駅となっているため、機器の設置に関しては運用面やセキュリティ面で課題があると考えています。旅の前に見ることができる動画コンテンツを作るといった手法論も考えていく必要があるのではないかと考えています。

◇対応方針・対応状況

足尾地域にある4つの駅に関しては、駅員が常駐している駅はなく、ビデオ等映像機器の設置は防犯上の問題からも難しいと考えています。

日光市は、動画で見る観光情報サイト、Re:NIKKO YouTube を公開しておりその中には、銅山観光や足尾まつりも出ております。 今後は、このような動画で見る観光情報のサイトを活用し、各駅周辺にQRコードを掲示するなど、観光客の満足度を上げて行きたいと思えます。

また、今後、足尾地域の歴史や魅力を発信できるような映像の制作についても検討していきたいと思えます。

⑥バスの利便性向上について

〈参加者の発言要旨〉

足尾と日光を結ぶバスの便で、シャトルバス化や定期便にプラスして土日や春夏秋の連休日に運行するといった交通利便性を図っていただけませんか。

〈市側の発言要旨〉

足尾地域の公共交通網のカバー率は市内でも高いと言えます。また、足尾地域には独自のタクシー券の制度もあるので、それを入れれば、カバー率はさらに高くなり、公共交通の面から言う行政としての整備率は数字的には高い状況です。ただし、この数字だけでは実態と違うということは承知しています。デマンドバスを導入した地域もありますが、利用率が上がりません。路線バスを廃止して、デマンドバスに切り替えれば路線バスの復活は難しく、今ある路線バスをできるだけ利用してもらうことが重要と考えています。方法論は提案させていただきますので、どういう道を選ぶかは地域と相談しながら決めていきたいと思えます。

◇対応方針・対応状況

足尾・日光間のバス増便などの輸送方法の見直しについては、輸送手段を増やすということだけではなく、足尾地域内の移手段の改善と併せて見直していく必要があります。

公共交通の運行を維持するためには、多大な費用がかかることから、日光市の公共交通のあり方と地域間のバランスを考慮しながら、地域にとってどのような方法が良いか、地域の皆様と相談しながら検討していきたいと考えています。

⑦バスの小型化と車内での観光案内について

〈参加者の発言要旨〉

現在のバスよりコンパクトなバスで楽しいラッピングを施していただけないでしょうか？また、バスの中で録音したものを観光の要所要所で案内するような工夫をして、今ある路線バスを最大限利用するよう魅力のあるバスにしていただけないでしょうか？

〈市側の発言要旨〉

路線バスには基準があり、座席と車いすのスペースが一緒になった作りとなっています。それしかないというくらい、バスの種類を選ぶことができません。中身の話はこれからできますので、そこは観光のほうとどういったことができるのか相談できると思います。

◇対応方針・対応状況

足尾の路線に導入しているバスについては、路線を運行するバスの更新について基準があり、観光客の輸送能力も考慮したうえで、一番小型となるバスを導入しています。

また、バスのラッピングや車内での観光客への案内放送については、実施の可能性について関係部署間で協議していきたいと考えています。

⑧かじか荘までの路線新設と現在の路線バスの増便に

ついて

〈参加者の発言要旨〉

観光客相手に国民宿舎かじか荘まで乗せて行く路線バスを出してもらえますか？また、日光までの本数をあと1本増やしてもらえますか？

〈市側の発言要旨〉

路線バスは今までいろいろ議論をして今の形になっています。本数を増やすことは不可能ではありませんが、運転手やバスの数等、経費の面を見比べて考えなければならないかと思っています。

◇対応方針・対応状況

かじか荘への路線バスの新設については、収支状況などを考慮すると、国の運行許可を受けることが難しいと考えます。

また、足尾・日光間のバス増便などの輸送方法の見直しについては、輸送手段を増やすということだけではなく、足尾地域内の移動手段の改善と併せて見直していく必要があると考えています。

⑨足尾銅山観光のテーマパーク化について

〈参加者の発言要旨〉

足尾銅山観光は、オープンから40年近く経つが、中身が変わっていません。門を入ったらテーマパーク化するなど工夫してほしい。提案としては、スタッフが時代時代の坑夫の恰好をした方が良いと思います。また、入口が分かりにくいという話をよく聞くので、切符売り場を上に移動し、上の駐車場を工夫して、そこに長屋風のテナントを造ってはどうか？飲食店は、今ある無料休憩所の一角に一方方向のドライブイン形式・カウンター形式で、イス・テーブルをそのまま使えるような有効的な休憩所になればいいと思います。

〈市側の発言要旨〉

銅山観光のスタッフユニフォームという話については、施設が通年営業であり、スタッフの健康にも配慮する必要があります。頂いたアイデアはそういったことも含め考えて行く必要があると考えています。銅山観光は足尾の観光の核となる施設であり、いろいろ課題がある中で、観光客のニーズも変化していくので、短期的ではなく長期的な足尾銅山を軸としたビジョンが必要になるかと思っています。

◇対応方針・対応状況

足尾銅山観光のスタッフユニフォームに関して、スタッフが当時の坑夫の恰好をするというご提案については、様々な体型の職員がいたり、施設が通年営業であり寒暖差も激しかったりすることから、職員の健康面や安全面を考慮すると導入することは、難しいと考えています。ご提案の本質であるテーマパーク化をして観光客の関心を引くという発想は、とても重要であると考えていますので、今後はそういった新鮮なテーマを念頭に、足尾銅山観光の運営に関し検討していきたいと思っています。

また、足尾銅山観光については、足尾地域の核となる施設であるため、銅山観

光本体だけではなく、レストハウス、駐車場など全体のエリアや個々のゾーニングを含めた将来的なビジョンを描くことが必要であると考えています。ただ、これは市やコンサルタントが考えたものでは意味がなく、足尾地域の方や事業者の方々が共同で、自ら考え、作り込んでいくことが必要だと感じています。

今後、足尾銅山観光を軸として、地域のみなさんと意見を交わしながら、将来の銅山観光を「足尾地域観光戦略」として作り上げていけるような仕組みづくりを、行っていきたいと考えています。

⑩かんも茶論への支援について

〈参加者の発言要旨〉

かんも茶論は、高齢者や足尾の人たちのお茶飲み場として立ち上げました。今ではおもてなしの場として意義ある場所になりつつあります。観光面だけでなく、地域福祉の観点からも重要な活動だと思っています。資金面など脆弱なので、室内照明など設備の充実等、今後も様々な面で行政のご支援をいただけないでしょうか？

〈市側の発言要旨〉

かんも茶論については、本来は介護予防のための集いの場ということですが、そこを軸としておもてなしや地域の活性化につながる事業をしていただいています。役所とすると複数の課が関わっている状況であるため、詳細については、後でご相談をさせていただきたいと思っています。

◇対応方針・対応状況

観光パンフレットの設置や観光情報の発信にご尽力いただいております。今後も継続した対応をお願いするにあたり、コミュニケーションを図り取組んでいきたいと思っております。

市有施設である足尾分庁舎の室内照明については、電気の容量等を勘案しながら、電球を交換するなど対応したいと思っております。

⑪銅山観光公衆トイレ及びわたらせ渓谷鐵道各駅

公衆トイレの改修について

〈参加者の発言要旨〉

銅山観光公衆トイレは開設以来のもので、観光事業としておもてなしにはならないと思っています。銅山観光の予算ではなく、市の観光事業の予算で改修することはできないでしょうか。無理な場合は、低予算でトイレを困ってしまうイメージを考えました。文星芸大の学生に坑口の絵を描いてもらい、坑内に入っていくようなおもしろいトイレにしてほしいと思います。さらに、通洞駅、足尾駅といった駅のトイレについても見劣りの無いようなトイレの整備だけはきちんとしていただきたいと思っています。

〈市側の発言要旨〉

トイレについては、日光市観光施設管理計画の中で洋式化を進めています。銅山観光のトイレについても計画に準じた形で改修しているのが現状です。トイレをきれいにするという目線もあれば、もう少し目線を広げて、銅山観光を軸として周辺をどうするか、入口やテナントの場所、さらにはトイレの場所も今の場所でもいいのかといったように一帯的に考えて行く必要があるとも思います。駅のトイレについても管理計画によって順次進めていますので、わたらせ渓谷鐵道(株)とも協議をしながら計画的に改修していきたいと思っています。

◇対応方針・対応状況

足尾銅山観光公衆トイレにつきましては、日光市観光施設管理計画に基づき洋式化を進めてきました。

現状、日光市内には76箇所もの公衆トイレがあり、限られた予算の中で計画的に改修を行っています。

トイレの改修については、今回、ご提案いただいた手法もあるかとは思いますが、オープンして38年経過し、経年劣化が著しいことに加え、観光客のニーズも社会情勢とともに変化していることから、足尾銅山観光につきましては、今後、レストハウスやトイレ、駐車場といったエリア、動線、ゾーニングを含めて、一体化した整備をしていきたいと考えています。

トイレについては、観光客にとっては、重要な部分であると認識しております。駅のトイレについても、わたらせ渓谷鐵道(株)と協議をしながら、観光施設管理計画に沿った改修を進めていきたいと思っています。

⑫古河機械金属株の産業遺産活用について

〈参加者の発言要旨〉

銅山観光も開設以来何十年と経っています。観光客も減っているのではないかと思いますので、今後は古河の産業遺産を見て回れるような道筋を立てていただけないでしょうか？大変難しい問題だとは思いますが、よろしく願います。

〈市側の発言要旨〉

産業遺産は足尾としては観光資源であるという側面もあるかと思います。反面、古河にしてみればセキュリティ面や見学者の安全確保といった課題があることも事実ですので、この資源をどう使うかといった視点や所有者である古河との協議も必要であると思っています。

◇対応方針・対応状況

足尾地域においては、産業遺産のまちづくりをテーマに旧足尾町時代から足尾銅山観光、環境学習センターなど整備を進めてきた経緯があります。しかし、土地の多くが古河機械金属株式会社所有であることや、産業遺産として一般公開するには、安全性の確保やセキュリティ面で課題も多いことから、現状では、教育委員会が作成した「足尾銅山近代化産業遺産マップ」を活用して観光客への案内をしている状況です。今後、関係部署と協議のうえ、必要に応じて産業遺産の所有者である古河機械金属株式会社と協議を進めていきたいと考えています。